



Newsletter No.035

恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり 人知れずこそ 思ひそめしか

How to survive the information-flooded era.

特進部 福岡 麗子 (英語科)

「うわさを信じちゃいけないよ〜♪」保善の山本リンダです。

インターネット上にはあふれんばかりの情報が流れていますが、すべてを鵜呑みにしては大変危険です。ツイッターでは真実よりデマが6倍の速さで広まるらしいからです(米マサチューセッツ工科大学の研究によると)。なぜ真実よりデマのほうが広がりやすいのでしょうか。

1940年代にハーバード大学の心理学者ゴードン・オルポートが「うわさの公式」をみちびきだしました。 $R \sim i \times a$ 「うわさの広まり

やすさ(Rumor)は、当事者に対する問題の重要さ(importance)と証拠のあいまいさ(ambiguity)をかけたものに比例する」ということらしいです。当事者にとって重要で、なおかつあいまいな情報ほど、うわさは広まりやすいということです。この公式は70年以上も前につくられたものですが、SNSで情報が広がる今も通用する考え方なのかもしれません。

それでは、デマやうわさに惑わされないためにはどうしたらいいのでしょうか。誤った思い込みや考え方の偏りは自分で気がつくのはなかなか難しいです。複数の人と「対話」をすることが、あいまいさや誤解を少なくする最良の方法ではないかと私は思っています。

特進クラスでは未来考動塾授などでグループワークをする機会が多くあります。ぜひ自分の意見を積極的に発表し、他の人の発言にしっかり耳を傾けてください。最初は上手に発表ができないかもしれませんが、それでも考えを整理しながら、努力を重ねれば、真意を伝える力が向上するのです。聞き手側になっている時は、フィードバックをすることを心がけましょう。コメントや質問をすることで、相手の言っていることへの理解度を深めることができます。

いい「対話」をするためには、誰もが安心して自由に発言できる場をつくるのが大事なとは言ってもないことです。自分とは違った意見が出たときにはそれを尊重し、自信がない意見でも思い切って発言してみしてほしいです。「対話」に真摯に取り組むことが、正しく情報を見極める力を養っていく一番の近道だと私は信じているからです。



保善祭「飛龍乗雲」

2年ぶりに「保善祭」が開催されました。昨年度は現2年生のみで「紺碧祭」が実施されましたが、1、2年生全員が参加し、保護者の方々を招待しての「お祭り」は久しく大いに盛り上がりしました。準備する時間はあまりに短かったと思います。それでも各団体が趣向を凝らし、完成された作品はどれも素晴らしいものでした。

1年1組『youtubeでもみるか〜』



パカッコイイ、ダンスの練習ではうまくいかないことの連続でした。予定通り撮影できなかつたり、せつかく成功したのに撮れてなかつたり、放課後何も得ることができなかったこともありました。完成した作品は一組にしかできない発想やユーモアが詰まっていたと感じると同時に、物足りなさや技術不足も感じました。(1-1 伊藤 秀真)

1年2組『檸檬の香りのする香水』



私たち、一年生にとって初めての文化祭でしたが、新型コロナウイルスの影響で規模を縮小となり、実現できないことが多々ありました。その中でも私たちのクラスは互いに協力し合いイレギュラーな文化祭をととても良いものにするのが出来ました。(1-2 加藤 豪)

2組はMVの再現動画を作成して発表しました。紆余曲折ありましたが、係が中心となり、成功を収めることができました。クラスパーカーも好評でしたし、動画の中身も工夫を凝らしたものになりました。このパワーを次年度実施されるであろう「本当の保善祭」で発揮して欲しいです。(藤原先生)

例年とは違う形での開催となり、また短期間で準備をした文化祭でしたが、2年1組ではクラス全員でアイデアを出し合い、全員で協力して出し物である「研究発表」の動画を作ることができました。私は催し物代表者として人をまとめるという経験ができ、大きな達成感がありました。この先の人生にもこの経験を活かしたいと思いました。(2-1 徳留 隆太郎)

2年1組『空想科学』



1組は様々な疑問に対する検証動画を作成しました。疑問は以下の4つです。「50m 糸電話で最も聞こえやすい糸の材質は何か」「消しゴムの消しカスは元の消しゴムの質量と同じか」「赤エレベータと緑エレベータ、早いのはどっち?」「2号館7階275教室から第2体育館柔剣道場まで歩いて何分かかる?」です。みんなが馬鹿馬鹿しいテーマを真剣に、そして楽しそうに検証する姿が印象的でした。さらに動画編集も各班工夫を凝らしており、出来上がった動画はシュールですが見ごたえのあるものとなりました。(細谷先生)

文化部も大活躍！！



文化部 特進クラス生徒(教員)

釣り研究部/
大下 心平、神宮 孝祐、曾根 陽太、竹内 俊人
ダンス部/
金谷 允、松田 駿介、山田 廉、藤原先生
吹奏楽部/
岡田 昊、石原 一、吹山 惇哉、細谷先生
軽音楽部/
徳留 隆太郎
鉄道研究会/亀井 健司、佐藤 光晟

鉄道研究会は教職員賞をいただきました！

今回の文化祭は例年とは異なる形での開催となり、初めて文化祭に参加する部員も多くて、戸惑いや苦勞が数多くありました。そのような中、このような賞をいただけて大変嬉しく思います。応援ありがとうございました。(鉄道研究会・会長 亀井 健司/3-1)



2年2組『カンナムスタイル』

祝！保善大賞！！

今年の保善祭で2年2組はPsyの「カンナム・スタイル」を踊りました。2組にはダンス部所属の生徒が3人いて、彼らが振り付けを考えクラスに教えてくれました。踊りの経験値、練習に対する熱量、行事に対する姿勢がそれぞれ異なる中、クラスが分裂しかけたことも何回もありました（文化祭あるある！）。しかし、見ている方向はみな一緒でした：いいパフォーマンスがしたい。当日は見事に一致団結し、最高のステージを魅せることができたと思います。（福岡先生）



私たちはダンス「カンナムスタイル」を披露しました。練習中クラスの雰囲気は悪く、成功できるかと心配しましたが、本番直前のダンスではクラス全員が目色を変え、恥ずかしがることなく真剣に踊っていました。文化祭を通してリーダーシップを取ることに難しさに改めて気づかされました。普段は学級委員長としてクラスを仕切るのに慣れているつもりでしたが、文化祭では何をするか、何を準備するか一から決める必要があります。いつもよりまとめるのに大変苦労しましたが、一つの目標の達成を全員で目指し、クラスの仲も大変深まったと思います。（2-2 武倉 瑛佑）

生徒会企画『保善、知っているつもり？』



生徒会が企画した「保善高校」に関するクイズ大会が開かれました。各クラスから一名が選ばれ、クラス対抗で競いました。特進クラスから、原嶋くん(1-1)、五十嵐くん(1-2)、神宮くん(2-1)、設楽くん(2-2)が挑戦し、設楽くんが第2学年の部でグランプリに輝きました！クイズは、保善史に関わる問題や、一発(?)でわかる問題、頭を使う問題など盛り沢山で、大いに盛り上がりを見せました。

祝！グランプリ受賞・設楽くんから一言

クイズ大会には気軽な気持ちでクラス代表として出場しました。短い時間でしたが本当の自分を精一杯表現できた時間でした。文化祭が終わってから多くの友達や先生に称賛してもらってとても嬉しかったです。（2-2 設楽 晴貴）

